

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

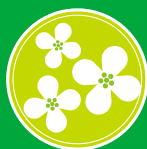
2011
平成23年

12.15

街なか彩る 光キラキラ!

目次

「しみの広場」	2
中部・北陸実業団駅伝 次回は田原市が熱戦の舞台に	
がんばる農業人紹介	
地域の話題	
市民活動を応援するページ	
スクールリポート	6
学校生活の一コマを紹介	
ちはらシティニュース	7
連載コーナー	8
おしらせ	10
歴史探訪クラブ	12



しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- 中部・北陸実業団駅伝 2ページ
- がんばる農業人紹介 3ページ
- 地域の話題（大草校区） 4ページ
- 市民活動を応援するページ 5ページ

中部・北陸実業団駅伝でトヨタ自動車陸上長距離部が3連覇！

次回は田原市が熱戦の舞台に

地域発！

今年、トヨタ自動車陸上長距離部（田原工場所属）が2011ニューイヤースタート駅伝で優勝し、万博記念の市町村対抗駅伝では田原市チームが3位になるなど、駅伝の活躍が大きな話題となりました。また、市町村対抗駅伝で豊橋市が優勝、豊川工業高校、豊川高校の高校駅伝はともに強く、東三河全体でも駅伝で盛り上がっていますよね。

11月13日（日）、岐阜県下呂市で開催された第51回中部・第41回北陸実業団対抗駅伝では、トヨタ自動車陸上長距離部が3連覇を果たしました。

この大会は、1961年に三重県伊賀市で第1回目が開かれ、第26回目からの26年間は現在の下呂市（旧金山町）で行われてきました。来年度から渥美半島を縦断するコースで開催されます。皆さん、ぜひ地域をあげて盛り上げてくださいましょう。



●トップでゴールしたトヨタ自動車陸上長距離部



●中部・北陸実業団駅伝の閉会式で、下呂市長から次回開催地の田原市長へ、たすきが渡されました（写真右から2人目が田原市長）



●2012年田原市カレンダー



●イラスト名刺テンプレート

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp>

●田原市ホームページ↓新着情報

昨年、好評だった「田原市カレンダー」の2012年版を、田原市ホームページからダウンロードいただけます。これは、市内の風光明媚な景色などの画像を配したカレンダーで、空きCDケースを利用する卓上カレンダーです。また、風光明媚な風景イラストをあしらった「名刺テンプレート」のワードデータのダウンロードもご利用いただけます。ぜひ、年末年始のごあいさつなどにもご活用ください。

ホームページからダウンロード
「2012年田原市カレンダー」
「イラスト名刺テンプレート」



●広報サポーター「めだか」 ツイッターなう♪

●ID「Koho Tahara」 ●ツイッターアドレス <http://twitter.com/#!/KohoTahara>



●「JGAP」団体認証書と大葉栽培のハウスの様子



●11月29日(火)に、田原市役所へ認証取得の報告をした組合員の皆さん

◎泉つまもの出荷組合ホームページ

HP <http://www.ja-aichiminami.or.jp/tumamono/index.html>

市民発! 私たち、JA愛知みなみ「泉つまもの出荷組合」は、9名の大葉生産農家で組織する出荷組合です。栽培面積は、約4ヘクタールで、年間約270万パックの大葉を出荷しています。安全・安心な大葉を届けるため、ミネラル栽培などの栽培法を行い、食味・香り・日持ち・栄養価の高い大葉を栽培しています。

これに加え、本年7月、JGAP(ジェイギャップ)の団体認証を、愛知県下のJA部会で初めて取得しました。JGAPとは、食の安全や環境保全に取り組んでいることが第三者機関の審査により確認された農場に与えられるものです。今後も組合員一丸となり、高品質で更に安全・安心な大葉の生産に力を入れていきますので、皆さんぜひご賞味ください。

※つまものとは、料理を引き立てるために用いられる葉っぱなどの総称



がんばる農業人紹介

投稿 JA愛知みなみ「泉つまもの出荷組合」

JGAP」団体認証を取得



●目揃会で部会員に説明をする農協担当者



●農林水産省の広報紙「aff(あふ)」でも紹介(H21年3月号)

◎常春部会ホームページ

HP <http://www.ja-aichiminami.or.jp/tokoharu/index.html>

市民発! 私たち、JA愛知みなみ「常春部会」は、市内436名のキャベツ農家で組織する生産部会です。部会員全員が、愛知県からエコファーマーの認定を受け、産地をあげて環境に配慮したキャベツ生産に取り組んでいます。栽培面積は約800ヘクタールで、年間約550万ケースのキャベツを出荷しています。

このたび、第50回農林水産祭で、「日本一のキャベツ産地の自負と責」任を持つて長期安定供給を實踐」していることが評価され、園芸部門で内閣総理大臣賞を受賞しました。部会では、出荷基準を統一するための目揃会、栽培技術向上するための講習会、女性部による小売店での消費宣伝などの活動を行っています。今後も、消費者の皆様に、「安全・安心・美味しい」高品質なキャベツをお届けできるようがんばっていきます。よろしくお願ひ致します。

※エコファーマーとは、土づくりや減化学肥料、減農薬などの、環境に優しい農業に取り組む農業者のことで、愛知県が認定しています

内閣総理大臣賞を受賞

投稿 JA愛知みなみ「常春部会」





▲豊橋相撲甚句会の皆さん(前列)と記念撮影



▲お茶やお団子を楽しむ子どもたちの姿も

地域の話題

大草校区

豊かな自然と人の和を

「自分たちの暮らすこの大草校区は、自分たちの手で創り、守っていく」を实践する大草コミュニティ協議会からお便りが届きました。



地

域づくりは、コミュニティ協議会という組織だけが取り組むものではなく、校区のひとり一人の協力が不可欠です。大草校区では、コミュニティ協議会と校区に係る人みんなが一緒になって、豊かな自然と人の和で「安心・安全大草校区」という将来像の実現を目指しています。今回は、さまざまな取り組みの一つをご紹介します。

風流な「お月見会」

9月11日(日)、今年で第5回となる「お月見会」を開催しました。天候にも恵まれ、当日は絶好のお月見日和。会場の宝幢寺跡の井戸前には、大人だけではなく子どもたちもたくさん集まり、美しい姿を現した月を見上げながら、美味しいお抹茶

を味わいました。

また今回は、豊橋相撲甚句会の皆さんをお招きして、大相撲の巡業などで披露される七五調の囃子歌「相撲甚句」を実演していただきました。会の皆さんの粋な計らいもあり、特別に相撲甚句「大草編」が披露され、その美しく響く声に会場全体がうっとり聞き入っていました。最後に参加者みなで「大草編」を練習し、一体感あふれるお月見会となりました。

さまざまな世代が同じイベントに参加し、一緒に楽しむことで、世代を越えた交流を深めることができました。



充実した地域づくりのためには、人と人との結びつきを深めることがとても大切だと考えます。ご紹介したような行事を開催することで、「結びつき」と「和」を深め、活力あふれる大草校区の実現に生かしたいと思います。

ブログで情報発信中！

今年5月から、ブログによる情報発信を始めました。「大草校区のことをもっと知ってもらいたい」という思いを込めて、イベントの様子や地域の話題を掲載しています。ぜひご覧ください。

HP <http://okusa.dosugoi.net/>



市民活動を応援するページ



市民活動紹介

あかばねひらがなの会

～地域に暮らす外国人をサポートし、多文化交流を深めます～

「あかばねひらがなの会」は、田原市内や近郊で住んでいる外国人の方と多文化交流をしている団体です。簡単な会話から文法までを勉強する「日本語教室」と、地域や日本の文化をもっと知ってもらうために、絵画や陶芸、料理などを学ぶ「創作教室」を開催しています。また、月刊「あかばねひらがなしんぶん」も発行して地域の方々との交流も進めています。

今年8月末には、地元の陶芸愛好者と一緒に焼き上げた1000個の湯飲み茶碗を、宮城県の南三陸町と七ヶ浜町に贈りました。その茶碗には、被災地の人々に笑顔が一日でも早く戻ることを祈りながら、一つ一つにメッセージとお茶の葉を添えて包みました。

ほかにも、市内の各種イベントに参加したり、お楽しみ会や見学会などを開催したりして、さまざまな場面で多文化交流を深めています。あなたも一緒に交流しませんか。お気軽にお問い合わせください。



▲「創作教室」の様子

●あかばねひらがなの会

代表・連絡先 中村都祁子（ときこ） ☎&☎ 45 局 2377

【日本語教室】第2、4土曜日／13:30～15:00／赤羽根福祉センター

活動日 【創作教室】第3日曜日／13:30～15:00／赤羽根市民館

市民活動報告

渥美半島の里海を美しくする会



▲宇津江海岸の清掃風景

「私たちの里海を美しく！」

11月27日（日）、姫島漁港から夕陽が浜海岸までの約15 km、10か所の海岸で清掃活動を行いました。今回の活動には、市民など1200人以上の方にご参加いただきました。

この地方にも被害をもたらした台風12号（8月）と15号（9月）の影響で、海岸には多くのごみがたまっていました。参加した皆さんは、大量の流木やプラスチック類などの家庭ごみに驚きながらも、一斉にごみを拾い始めました。

大量の流木は、田原市土木協会の協力でダンプに積み込まれました。1時間半の清掃時間でしたが、皆さんの力でみるみるうちにごみが片付き、きれいな浜となりました。

これからもごみは渥美半島の海岸に打ち寄せますが、この清掃活動を継続することで、少しずつごみは減っていきます。私たちの住む渥美半島の里海を美しくするために、今後ご理解とご協力をお願いします。

●渥美半島の里海を美しくする会

会 長

赤尾昌昭

田原市民活動支援センター

<http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/>

❶ NPOや市民活動に関する相談を受け付けています。（毎週木・金・土 14:00～19:00 田原文化会館フリースペース）

❷ このページおよび市民活動支援センターホームページに掲載する市民活動情報を募集しています。

●お問い合わせ：☎22局 1111（内線812）※ 開設時間のみ ☎23局 0180 ☎shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp



スクールリポート

SCHOOL REPORT 41

学校生活の
一コマを紹介

今回は、小学校で宿泊体験を通してふるさと学習に取り組む様子と、全校で農業体験活動に取り組む様子をご紹介します。

●学校教育課 ☎ 23局3679

赤羽根小学校「ふるさと学習宿泊体験」

豊かな心を育むふるさと学習！

9月14日(水)～16日(金)、5年生20名は、田原市の姉妹都市・設楽町にあるつぐ高原グリーンパークで2泊3日の宿泊体験を行いました。

3日間とも天候に恵まれ、山の大自然を味わうとともに、豊かな自然の中でさまざまな体験を通して、仲間との絆をより一層深めることができました。子どもたちは、キャンプファイヤーに飯ごう炊さん、ニジマスつかみに五平餅作り、ボールペン作りやコースター作りなどに挑戦しました。初めて取り組むことばかりでしたが、仲間と協力したり助け合ったりすることの大切さを体得するよい機会になりました。

子どもたちは、宿泊体験で、仲間とのふれあいを通して山の良さを知り、ふるさと赤羽根の良さを再確認できたようです。今後も、ふるさとや自然を大切にする豊かな心を育んでいきたいと思います。



●協力したニジマスつかみで、もっと仲良しに！



●火の神からのキャンプファイヤーの点火式



●縦割り班での「イモほり集会」



●全校児童のイモを焼く6年生

大草小学校「農業体験活動」

大豊作だった学級園での野菜づくり！

大草小学校では、毎年、学級園での野菜づくりに取り組んでいます。しかし、ここ数年、連作の影響などで水はけが悪くなり、病虫害にも悩まされ、野菜の出来栄が今ひとつとよくありませんでした。そこで、昨年「魅力ある学校づくりプロジェクト事業」で畑の整備を行い、土の入れ替えを行いました。そのおかげで、今年は野菜が見違えるほど元気に育っています。

「すごく高いね！」と天高く伸びたヒマワリを見上げる子。「どんどん出てくるよ」とサツマイモを掘る子。毎年、学級園では、ミニトマトやカボチャ、キュウリなどを栽培していますが、今年はどの作物も例年の2～3倍の収穫量で、殺虫剤などの農薬もほとんど使わずに済みました。

11月の焼きイモ集会では、大きく育ったイモを焼き、全校でおいしく食べました。子どもたちも職員も大喜びの農業体験となりました。これからも、この学校園を生かした体験活動を続けていきたいです。

11月13日(日)

みんなで協力
地域を守る！

自主防災会の二斉防災訓練が市内全域で行

われ、約1万2000名の市民が参加しました。訓練では、大地震により愛知県外海などに「大津波警報」が発表されたことを想定。避難訓練のほか、応急救護や炊き出し訓練などを行い、地域防災の大切さを再認識しました。



▲消火器による初期消火訓練を行う住民たち(大草校区)

11月17日(木)

訓練の成果！
驚異の6連覇

愛知県消防職員駅伝大会が愛・地球博記

念公園で開催され、県内の58チームが参加しました。消防職員の体力練成の一環として、毎年行われているこの大会。田原市から2チームが参加し、Aチームが6年連続の優勝という快挙を達成。Bチームも26位と健闘しました。



▲鍛え上げた「心技体」で、市民の皆さんに安心・安全を！

11月13日(日)

地域に根差した
福祉を目指して

福祉のつどいが田原市総合体育館などで

開催され、約3000名が参加しました。福祉関連ブースが多数出展したほか、地域人権啓発活動活性化事業として菊地幸夫弁護士による講演会が催され、参加者は地域福祉活動や人権に関する認識を深めました。



▲「出会いの人生から学んだこと」と題し、講演を行う菊地幸夫弁護士

広がる未来へ

たはらエコ・ガーデンシティ構想

68

第3回全国都市のサステナブル度調査 田原市が全国第一位に！

日経グローバル（日本経済新聞社産業地域研究所）が行っている「全国都市のサステナブル度調査」で、田原市が全国第一位となりました。

サステナブルとは「持続可能な」という意味で、サステナブルな都市とは「環境保全度」「経済豊かさ度」「社会安定度」の3つの側面が、バランスよく発展した都市をさします。

今回の調査では、農工業のバランスと、環境と共生する豊かで持続可能な地域づくり「たはらエコ・ガーデンシティ構想」の推進、太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギーの普及などが高く評価されました。



サステナブル度（総合評価）ベスト5市

総合順位 (前回調査)	自治体名 (都府県)	総合 スコア	環境保全度スコア 順位		社会安定度スコア 順位		経済豊かさ度スコア 順位	
1 (8)	田原市 (愛知)	60.9	60.4	33	52.8	48	69.8	3
2 (3)	豊田市 (愛知)	60.6	61.1	23	48.1	473	72.1	2
3 (2)	三鷹市 (東京)	60.5	66.8	1	51.2	139	57.3	58
4 (1)	武蔵野市 (東京)	60.0	60.4	33	53.5	31	65.7	7
5 (7)	名古屋市 (愛知)	59.5	64.2	2	49.0	387	60.5	24

※全国809市区のうち有効回答は630市区。スコアとは偏差値の平均値のこと

▼ エコエネ推進室
23局7401 FAX 23局0180

◎ たはらエコチャレンジ宣言登録者数
個人1672人・事業所77か所(11月末現在)

パソコンには、リサイクルすることのできる貴重な資源が使われていることをご存知ですか？
今回は、パソコンのリサイクルについてお知らせします。

何が資源になるの？

パソコン本体、ディスプレイ、ノート型パソコンに使われている鉄や銅、プラスチックだけでなく、希少金属である金、銀、コバルトなどもリサイクルできます。



何が回収できるの？

- ◆デスクトップ本体
- ◆CRTディスプレイ
- ※一体型パソコンを含む
- ◆液晶ディスプレイ
- ※一体型パソコンを含む
- ◆ノート型パソコン
- ◆購入時の標準添付品
- ※マウス、キーボードなど



省資源とリサイクル

44

ゴミゴミとリサイクルレンジャー

データはどうすればいいの？

ハードディスクは、再資源化センターで破壊処理を行います。使用者の責任でデータの消去をしてください。

回収場所？

リサイクルマークが付いたパソコンは、パソコンメーカーが無料で回収し再資源化します。



※リサイクルマークの付いていないパソコンや、自作パソコンなどは、パソコン3R推進協会が有料で回収し再資源化します。

◆メーカーがわかる場合は、各パソコンメーカーのリサイクル受付、メーカーが不明、自作パソコンなどは一般社団法人パソコン3R推進協会へお問い合わせください。

(03)5282局7685

HP <http://www.pc3r.jp/>

リサイクルにご協力ください。

清掃管理課

23局3538 FAX 23局0180



交 流 通 信

【国内外との交流・多文化共生】

渥美農業高等学校 国際交流推進功労者表彰を受賞

●地域に根ざした国際交流を推進し受賞

愛知県立渥美農業高等学校が、公益財団法人愛知県国際交流協会から、平成23年度国際交流推進功労者表彰を受賞しました。農業高校の特性を活かした交流事業が、学校だけ



▲表彰式の様子(11/9㊦)

にとどまらず、地域に根ざした国際交流の推進・相互の国際理解に貢献していると評価されたものです。

この表彰は、多年にわたり県内の国際交流の推進に尽力し、その功績の顕著な個人または団体を対象に毎年行われ、これまでに田原市では、個人表彰として2名、団体表彰として1団体が受賞しています。



▲ウェラントカレッジの生徒・教師が田原市を訪問。議場にて記念撮影(11/10㊦)

●農業学校同士の姉妹校交流

渥美農業高校は、国際化に対応できる人材育成を目指し、オランダの農業学校ウェラントカレッジと平成9年1月に姉妹校提携。翌年から生徒の相互訪問が始まりました。生徒たちは訪問先でホームステイし、学校生活と家庭生活を体験。また、農家で実習を行うなど、農業について学びながら地元の人たちとも交流を図っています。

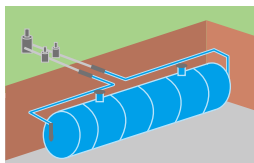


▲ウェラントカレッジでのフラワーデザイン体験(6/13㊦)

農業が盛んなオランダ。その国内で最大級を誇る農業学校との姉妹校交流は、担い手の国際感覚を育み、田原市の農業をさらに発展させてくれるでしょう。

▶広報秘書課 ☎ 22局0138

災害時に水道が使えなくなっても、飲料用水を確保しておくことができる貯水槽のことです。震度7の激震にも耐えられます。普段は水道管に接続し、その一部として機能しています。災害が発生すると、水道管との接続部分が自動的に遮断され、貯水槽になります。貯水槽内の水は、災害発生直前まで常に流れているので、消火だけでなく飲料用にも利用できます。



▲飲料水兼用耐震性貯水槽

こ んにちは、けんちゃんです。災害時に飲料水を確保するための施設として配水池(10か所)と飲料水兼用耐震性貯水槽(11か所)があります。また、防災倉庫にもペットボトルを備蓄しています。今回は、飲料水兼用耐震性貯水槽についてご紹介します。

- ◆設置場所(容量)
- ・童浦市民館駐車場(60t)
 - ・田原中学校運動場(100t)
 - ・田原福祉センター駐車場(60t)
 - ・セントファール裏(60t)
 - ・中部市民館駐車場(60t)
 - ・神戸市民館裏(60t)
 - ・赤羽根市民館駐車場(60t)
 - ・泉小学校運動場(60t)
 - ・旧福江市民館駐車場(60t)
 - ・中山市民館駐車場(100t)
 - ・堀切市民館駐車場(60t)

◆家庭でも最低3日分の備蓄を

災害時、市民の皆さんへ十分な飲料水を確保できますが、被害状況などにより給水活動を行うまでに時間がかかる場合があります。

家庭でも最低3日分の飲料水

(ひとり1日3

リットル)と食

料などを備えて

おきましょう。

▼防災対策課 ☎ 23局3548



みんなできり組む防災・減災
けんちゃん
防災知恵袋
災害時の飲料水の確保

8





募集

渥美郷土資料館企画展監視員

渥美郷土資料館で開催する企画展の展示室監視員を募集します。

▼募集人員 5名 ▼採用期間 平成24年2月4日(土)～3月18日(日) ▼勤務時間 午前9時～午後1時または午後1時～5時(交替勤務) ▼勤務内容 展示室監視 ▼賃金 時給830円 ▼選考方法 応募者多数の場合は、書類選考後、面接(期日など詳細は後日通知) ▼申し込み 平成24年1月15日(日)までに田原市博物館にある履歴書に必要事項を記入のう

え開館時間内に提出(郵送不可)

▼田原市博物館

☎ 22局1720 FAX 23局3770

田原市臨時職員

臨時保育士・調理員・用務員

▼募集人員 各若干名 ▼採用期間 平成24年4月1日～9月30日(更新される場合あり) ▼勤務場所 市内保育園 ▼勤務形態 月曜～金曜日(祝日を除く) ▼職種・業務

内容・賃金・勤務時間 表のとおり

田原市臨時保育士・調理員・用務員

職種	業務内容	賃金	勤務時間
保育士	乳幼児の保育	時給1,100円 または1,200円	午前8時30分～午後5時 ※ただし、午前7時30分～午後7時の内で、7時間45分勤務シフトあり
調理員	給食の調理、園舎の清掃など	時給930円	午前8時30分～午後4時15分

※臨時保育士の場合は保育士資格が、臨時調理員の場合は調理師資格が必要です

▼申し込み 平成24年1月31日(火)までに子育て支援課へ直接または電話にて ▼その他 登録制度による、臨時保育士などの途中採用を行っています。詳しくは、お問い合わせください。

▼子育て支援課

☎ 23局3513 FAX 23局3545

図書館研修「やってみよう回想法」聞き上手は話し上手」参加者

昔懐かしい思い出を語り合う「回想法」。楽しいおしゃべりは、頭も心も元気にします。2回目となる今回の研修は、実際に回想法を体験して学ぶ内容となります。この機会に「聞き上手」「話し上手」になるコツを学び、職場や家庭で「回想法」を始めてみませんか。

▼対象 病院・福祉施設関係者、回想法に興味のある方 ▼日時 平成24年1月21日(土) 午後1時～4時30分 ▼場所 田原文化会館 201・202会議室 ▼講師 梅本充子氏(聖隷クリストファー大学看護学部看護学科准教授) ▼内容 【第1部】回想法基礎知識(講義) 午後1時～2時30分 【第2部】回想法演習(演習) 午後2時45分～4時30分 ※どちらかのみの参加も

可 ▼定員 30名程度(先着順) ▼申し込み 平成24年1月6日(金) 午前10時から直接または電話にて ▼中央図書館

☎ 23局4946 FAX 23局4646

田原市食育講演会 参加者「食が乱れれば、心も荒む」

「食」について正しく理解し、子どもと話してみませんか。食生活がいかにかに「心」と「体」に大切であるかを一緒に学びましょう。



▼日時 平成24年1月28日(土) 午後2時～3時30分 ▼場所 田原文化会館多目的ホール ▼講師 永山久夫氏(食文化史研究家) ▼テーマ 「食が乱れれば、心も荒む」 ▼定員 150名(要予約・先着順) ▼入場料 無料 ▼申し込み 電話・FAX・Eメールにて (FAX・Eメールの場合は、住所・氏名・電話番号・参加人数を明記) ▼託児 平成24年1月17日(火)までに電話予約

▼農政課

☎ 23局3517 FAX 22局3817

✉ nosei@city.tahara.aichi.jp

鳥羽伊良湖航路の「愛称」を募集します

鳥羽伊良湖航路は、田原市の伊良湖港と三重県鳥羽市の鳥羽港を結ぶ海の道です。このフェリー航路に、より親しんでいただくための「愛称」を募集します。



これからも末永く呼んでもらえる「愛称」を、ぜひご応募ください。

▼募集期間 12月31日(土)まで

▼応募方法 専用ホームページまたは応募用紙にて

●ホームページの場合

専用ホームページの応募フォーム

に必要な事項をご記入のうえ送信してください。

●専用ホームページ

HP <http://www.isewanferry.co.jp/>

nickname/

●応募用紙の場合

鳥羽伊良湖航路の乗船時に配布する応募用紙に記入し、船内に設置した応募箱へご投函ください。

▼応募資格 どの年齢でも
▼審査方法 応募作品の中から、選考事務局による厳正な審査のうえ決定(同案多数の場合は抽選)
▼愛称発表 専用ホームページ・広報たはらなどにて(平成24年2月ごろ決定の予定)
▼賞品 最優秀賞1名の方にはホテル宿泊招待券 ※そのほか、応募者の中から抽選ですてきなプレゼント

入札参加資格の 定時申請の受付が始まります

平成24年度および平成25年度の2か年度に、田原市が発注する建設工事、業務委託、物品購入などの入札に参加を希望される業者の方の定時申請の受付が始まります。

▶受付期間

平成24年1月4日(水)～2月15日(水)

申請は、インターネットを利用した電子申請による登録となりますので、ICカード登録などの準備をお願いします。申請方法などに関する詳細については、田原市ホームページをご覧ください。

▶契約検査課

☎23局3505 FAX 23局0180

HP <http://kensa.city.tahara.aichi.jp/cgi-bin/info/index.cgi>

が当たります。

▼鳥羽伊良湖航路活性化協議会(鳥羽市企画財政課企画調整係)

☎(0599)25局1101

放送大学 平成24年4月入学生

放送大学で

は、平成24年度第1学期(4月入学)の学生を募集しています。放送大学は、テレビやラジオの放送を通して学ぶ遠隔教育の大学です。「働きながら学んで大学を卒業したい」「学びを楽しみたい」など、さまざまな目的で、幅広い世代や職業の方が学んでいます。心理学・福祉・経済・歴史・文学・自然科学など、幅広い分野を学べます。



▼出願期間 平成24年2月29日(水)まで

※資料が必要な方は、ぜひご連絡ください。資料の申し込みは、放送大学ホームページでも受け付けています。

▼放送大学

☎(0120)864局600

HP <http://www.ouj.ac.jp/>

生活

LIFE

青少年の非行・被害防止に 取り組む冬の運動

年末年始を迎えるにあたり、青少年が有害な環境に接する機会の増加が予想されます。また、インターネット利用による犯罪や事件が増えています。地域、家庭、学校が一体となり、青少年の健全育成に取り組ましましょう。

▼スローガン 「非行の芽 はやめ につもう みな我が子」 ▼期間 12月20日(火)～平成24年1月10日(火)
▼実施事項 1 パトロール、啓発活動、インターネット適切利用の推進ほか

▼生涯学習課

☎23局3531 FAX 22局3811



DONATION

寄付

次の方からご寄付をいただきました。ご厚意に感謝します。

▼11月29日、特定非営利活動法人三河三座理事長代行 伊賀太吉様から伝統芸能普及啓発のため図書50冊。

歴史探訪

クラブ

History Inquiry Club

其の
129



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

九州からやってきた「宝物」

今回は、最新の発見を一つご紹介
します。

熊本大学の大坪志子助教おおつばしこから、
渥美半島で発見された縄文時代の玉
を調べたいという連絡がありました。
その目的は、九州産の石材の玉の分
布を調べるためということでした。

縄文時代において、現在の宝石の
ように大事にされた石に、新潟・富
山県産のヒスイがあげられます。
渥美半島でも、縄文時代のヒスイの
玉が見つかっています。しかし、今

でも250 km離れたヒスイの原産地
である新潟・富山県境に行こうとし
たら、車で高速道路を走ってもずい
ぶん時間がかかります。ましてや、
その土地も馴染みがありません。で
は、そんな遠方からやってきた「宝
物」に、縄文人はどのような思いを
抱いていたのでしょうか。

写真は伊川津貝塚で発見されたヒ
スイの玉で獣をまねた形です。大き
さは2.5 cmもあり、田原市で一
番の超高級品です。

さて、大坪さんが探し求めていた
九州産の石材の玉は、吉胡貝塚の出
土品の中から見つかりました。直径
8.5 mm、厚さ3 mmほどの小さな玉
です。含クロム白雲母片岩しろうもへんがんという石
で、ヒスイにも負けない緑色をした
美しい石です。ヒスイは長い間、産
地不明の石として扱われ、日本での
原産地が判明したこともこの50年ほ
ど前の話です。
これらの劇的
な発見や、そ
の神秘的な魅
力から、緑色
の玉はヒスイで
あるという先入



●ヒスイの玉(伊川津貝塚)



●九州産の石材の玉(吉胡貝塚)
※吉胡貝塚資料館で展示中

観が生まれました。そこで九州にも、
ヒスイとされた玉が見つかったいま
したが、大坪さんがそれらの石を分
析したところ、その7割が九州産の
石で、ヒスイではないことがわかり
ました。さらに調べると、その石の
流通は東にも広がり、ヒスイの原産
地にまでいきわたっていることが分
かりました。ヒスイでも驚いたのに、
600 kmも離れたところから来たと
は、縄文人のエネルギーのすごさを
感じました。確かに九州産の玉は、
渥美半島にあったのです。

美しい緑色の石の本来本元である
ヒスイの産地にまで及んだこの石
は、美しい緑色へのこだわりから、
九州地方から流行したものでしょ
う。東高西低とされた縄文文化で、
西からこれほどまでの影響力を持つ

た物はないかもしれません。この玉
は、そういったことから研究者に
とっては、今でも立派な「宝物」な
のです。

落としたらなくしてしまいそうな
小さな玉は、縄文人によって想像も
つかない長旅を経て、渥美半島にも
たらされました。いったいどのよう
な旅をしたのでしょうか。渥美半島
の人が九州を訪れたのでしょうか？
それとも何人かによって届けられた
のでしょうか？この玉と交換に与え
たものは一体何でしょうか？

調査を終えた大坪さんが、「よく
ぞこんな遠くまで来てくれたね」と
小さな玉に話しかけていた姿と、玉
を愛おしく見つめる縄文人の姿が重
なかってとても印象的でした。

(増山)

今月の 「表紙」

▼街なかのイルミネー
ションを撮影しよう
中央広場へ。輝く光を表
現したくて、あっちに行ったり、
こっちに行ったり。そして、最終
的に決めたアングルは、道路の
向かい側にある茂みの横からで
した。しゃがみこんで、下から覗
き込むように写す私の姿は、さ
ぞ怪しかったでしょうね。(O)
【表紙の写真】中央広場付近のイルミネーション